

紀のわ

ki no wa



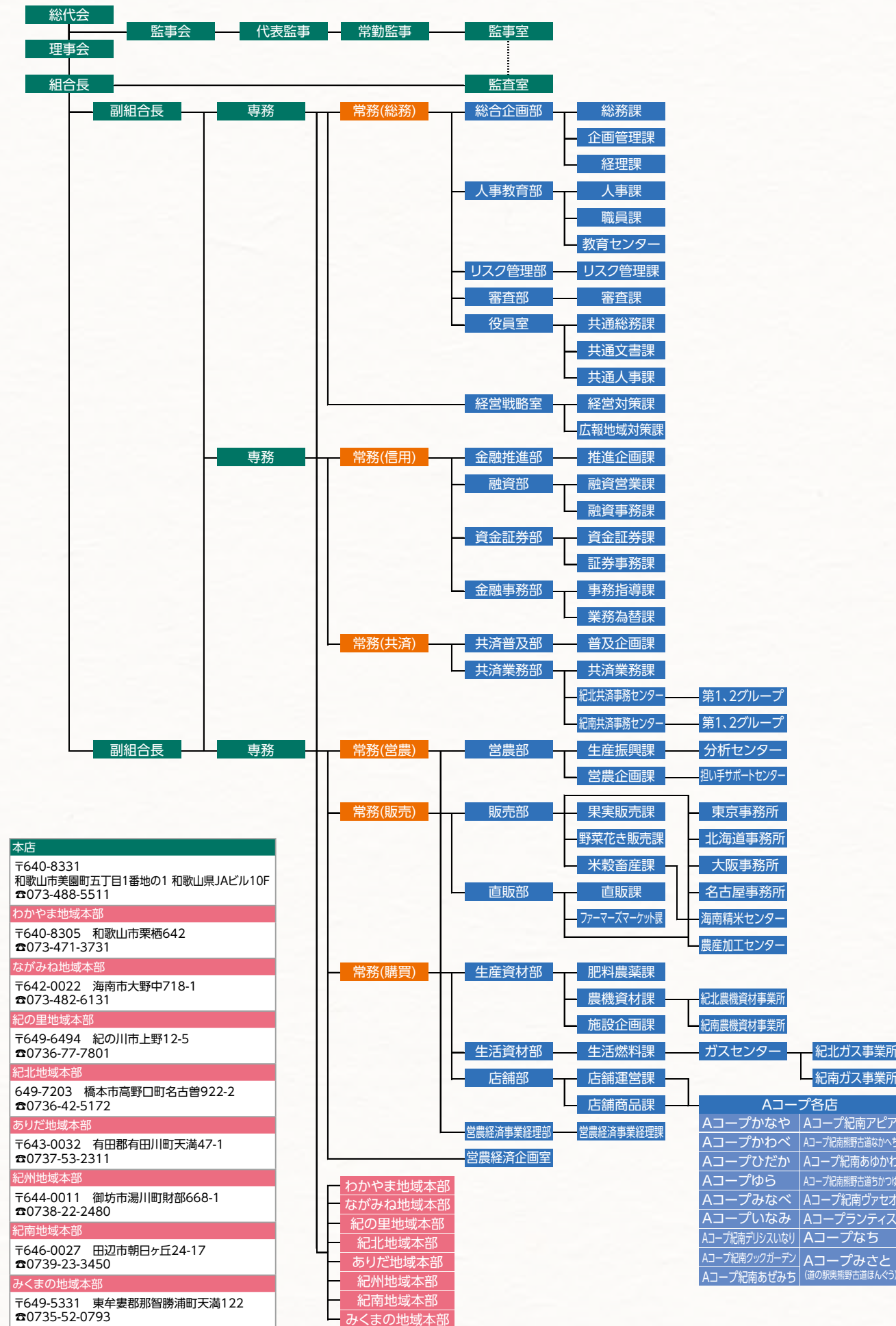
JAわかやま広報誌

2025.04 vol.1

創刊号



和歌山県農業協同組合 機構図



新JA発足のご挨拶

和歌山県農業協同組合 組合長
坂東 紀好

組合員・地域の皆さまにおかれましては、ますます
ご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、4月1日、県内8JAが合併し、「和歌山県農業協
同組合」が発足いたしました。全国に誇れる和歌山ブ
ランドの農産物をはじめ、組合員数や事業規模におい
ても全国有数のJAとなります。将来にわたって地域
農業を守り育むため、役職員一丸となって責務を果た
し、事業活動を通じて組合員・利用者の皆様の期待に
応えられるよう努めてまいります。

これまでの経緯を少し振り返ってみますと、平成27
年に開催した第28回県JA大会が、「県1JA合併」協議
のスタートでありました。その後も、農業・農村・JAを
取り巻く環境が一層厳しさを増す中、自己改革を断
行しながら組合員の負託に応えていく一方、並行して
「県1JA合併」の協議を重ねてきました。そして10年
余りが経過して「和歌山県農業協同組合」が誕生した
次第ですが、合併に至るまで組合員の皆様にはご理
解と多大なるご支援をいただき、深く感謝申し上げま
す。

和歌山県農業協同組合は、農業を基軸に地域に
根ざした協同組合として、「魅力ある力強い農業の実
現」「果樹・園芸産地の堅持」「地域の活性化への貢献」
「地域に根ざしたJA運営」「盤石な経営基盤の確立」
を目指し、組合員の皆様の願いや夢を共に実現してい
くことが大きな使命であります。

しかし、本県の農業は担い手の高齢化や後継者不
足等による生産基盤の弱体化が進んでおり、また、人
口の急激な減少により地域コミュニティの維持が困
難な地域が増えつつあるなど、これまで以上の農業
振興や地域活性化が大きな課題であると認識してい
ります。持続可能な農業・地域共生社会の実現を目指

し、「合併してよかった」と実感してもらえるよう、チャ
レンジ精神が旺盛で熱意と情熱ある組合員を支え、
活躍していただける事業体制を目指してまいります。

農業や地域が豊かになるためには、人と人とが繋
がりを持ち協力しあうことが欠かせません。人々が互
いに認め合い、支え合い、共に生きる社会を築くため、
みんなで紡ぐ温もりのあるJAを目指します。

和歌山県農業協同組合として事業をする目的とは
何か。それは組合員から「ありがとう」「おおきに」とい
う言葉をいただくことに尽きると思います。自己満足
ではなく、組合員農家とともに喜びあえることを常に
意識することが大切です。実り豊かな未来を創造し、
地域農業を守り続けるため不退転の決意で邁進して
まいりますので、組合員の皆様には、今後とも一層のJ
Aへの参画とご理解・ご協力を賜りますようお願い申
しあげ、記念すべき新JA発足のご挨拶といたします。



和歌山県の8JAが一つに
「和歌山県農業協同組合」(愛称:JAわかやま)

新JAの目指す方向と主な取組事項

農業を基軸に地域に根ざした協同組合として、盤石な経営基盤のもと、農業所得の向上と農業生産の拡大に全力で取り組むとともに、組合員による協同活動と総合事業等を通じて、地域の活性化に貢献します。

(1) 魅力ある力強い農業の実現

販売力と仕入力を強化することで農業所得の向上に努め、次世代の担い手にとって「魅力ある力強い農業」を実現します。

- 品目間リレーや産地間リレー等により、さらなる有利販売を目指します。
- 生産者の合意のもと、柑橘、柿、梅など12品目の県域一元販売・一体販売に向けた検討・協議をすすめます。
- 肥料・農薬は、主要品目の対策価格を設定するとともに、銘柄集約や重点品目設定など結集による仕入機能強化に取り組めます。
- 多様化するニーズに応じて、低コスト・労力軽減資材や安定・高品質生産に資する商品提案を行います。

(2) 果樹・園芸産地の堅持

全国トップクラスの生産量を誇る果樹産地と特色ある園芸産地を堅持します。

- 新規就農者の総合窓口として「担い手サポートセンター」を設置し、農業者の育成・確保に取り組めます。
- 50億円の積立金を創設し、年間5億円を上限とした「農業振興支援制度」にて生産者支援を行います。
- 果樹(常緑・落葉)、水稻・野菜、花き・花木の専門知識の高い「品目専門指導員」を配置します。
- 営農指導員を概ね20人増員し、出向く体制を充実・強化します。

(3) 地域の活性化への貢献

総合事業や協同活動の展開を通じて、生活インフラの一翼を担うとともに、地域の活性化に貢献します。

- Aコープは、「運営の一体化」を進め、仕入機能強化と店舗運営力の高位平準化等を図ります。
- 需要に即した移動購買(販売)車の運用により、買い物不便地域の生活インフラ機能の一翼を担います。
- 組合員の拠り所となる支店づくりに向け、支店等における協同活動を充実します。
- 高齢者の見守り活動、環境や街の景観保全活動、農福連携など地域社会への貢献活動に取り組めます。

(4) 地域に根ざしたJA運営

地域本部の設置・運営等を通じ、組合員の意思反映に努めるとともに、地域に根ざしたJA運営を行います。

- 県内8地域(現在のJA単位)に地域本部を設置し、組合員対応や意思反映等の機能を担うほか、支店や営農センター等を統括し、地域における事業活動や協同活動・組織活動を推進・支援します。
- 総代会に加え、総代懇談会、地域運営委員会・支店運営委員会の設置・運営、組合員組織活動や日常の訪問活動などにより組合員との対話を徹底・強化し、地域の多様な組合員の声をJA運営に反映します。

(5) 盤石な経営基盤の確立

機能・体制の充実・強化等により収益性を高めるとともに、重複機能の集約等による合理化・効率化を通じて、農業の振興と地域の活性化に貢献できる盤石な経営基盤を確立します。

- JAの将来像や組織・事業・経営のあり方について、役職員・組合員で共有するとともに、その実現に向けた経営戦略、中期計画等を策定します。
- 事業モデルの転換、新規事業開拓、各部門・地域本部と連携した経営改善への取り組み等を通じ、盤石な経営基盤と安定した経営を実現します。



「和歌山県農業協同組合」の設立について

合併の理由・目的

本県JAグループは、これまでも「農業所得の向上」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標とする自己改革に取り組んできましたが、農業生産基盤の脆弱化や人口減少・高齢化の進行等による地域社会・経済の疲弊、地域の活力低下のさらなる深刻化が懸念されます。そのような中であっても、将来にわたり本県農業の振興と地域の活性化に貢献していくため、合併により盤石な経営基盤を確立し、

- ①果樹・野菜・花きを中心とする全国有数の販売高と知名度を活かした品目間・産地間リレーなど「オール和歌山」での販売強化による「魅力ある力強い農業の実現」
- ②専門知識の高い品目専門指導員の配置や営農指導員の増員等を通じた「販売高600億円を誇る果樹・園芸産地の堅持」

による、農業所得の向上と農業生産の拡大に全力で取り組むとともに、総合事業や協同活動を通じた「地域の活性化への貢献」を目指します。

被合併組合

わかやま農業協同組合 ながみね農業協同組合 紀の里農業協同組合
紀北川上農業協同組合 ありだ農業協同組合 紀州農業協同組合
紀南農業協同組合 みくまの農業協同組合

【中央会・連合会の機能承継】

①JA和歌山県農	新JAの合併日から1年以内に包括承継します。
②JA和歌山信連 JA和歌山中央会	合併当初は効率化信連、簡素な中央会として存置しますが、一定期間経過後(概ね3～5年後)に存置した機能を含め包括承継します。
③JA共済連	全国組織であり包括承継できないため、県本部を存置し、引き続き必要な機能を発揮します。

事務所の所在地

本店は和歌山県JAビルに置きます。

「和歌山県農業協同組合」の規模

貯金残高	1兆8,334億円(全国3位)	組合員数	192,242人(全国3位)
長期共済保有高	3兆1,116億円(全国5位)	職員数	2,648人(全国2位)
購買品取扱高	305億円(全国4位)	※規模は令和5年度の各JA決算結果の合計。 ※全国順位は令和5年度の全国の総合JAと比較した場合の順位。	
販売品販売高	563億円(全国3位)		

理事・監事紹介

introduction

組合長



坂東 紀好

副組合長



総務・信用・共済担当
岩上 昌義



営農・販売・購買担当
芝 光洋

専務理事



総務担当
小川 純生



信用・共済担当
森 博克



営農・販売・購買担当
玉置 友博

常務理事



総務担当
鎌田 裕司



信用担当
芝田 英敏



共済担当
山田 知己



営農担当
谷口 忠



販売担当
本谷 昌平



購買担当
澤井 壮平

地域本部長



わかやま
半田 悦雄



ながみね
岡野 清隆



紀の里
中山 裕之



紀北
小倉 新



ありだ
小原 健二



紀州
阪本 浩和



紀南
大炭 敦史



みくまの
向井 和央

理事



わかやま地域



小方 保寛



野上 眞弓



岩尾 浩伸

ながみね地域



角谷 泰宏

紀の里地域



中垣 芳久



永長 豊英

紀北地域



宮本 幸博



和田 守央

ありだ地域



松本 弘夫



森田 耕司

紀州地域



西川知枝美



片山 忍

紀南地域



坂本 和彦



萩 美由紀



山本 孝一



丸谷 和樹



北川 佳子

みくまの地域



石田 守

青年部推薦理事



小林 大将



木村 文俊

女性会推薦理事



嶋本 節子



脇田 保美

代表監事



芝崎 泰章



金岡 弘樹



松平 巖



西山 崇



田淵 誠司

監事



山下 建蔵



湯川 雅人



中芝 啓次



見座 勝文



赤松 依子



尾崎 謙二



宮木 茂夫

紀の里地域



⑦ めっけもん広場

紀の川市豊田56番地3
☎0736-78-3715
9:00～17:00
[定休日:第1火曜日、
盆、年末年始]



那賀ふれあい市場

紀の川市西野山478-1
☎0736-75-6336
9:00～16:00
[定休日:火曜日、盆、年末年始]

桃山特産センター

紀の川市桃山町市場404番地1
☎0736-66-2384
8:30～17:00
[定休日:火曜日、盆、年末年始
(ただし6月から盆まで無休)]

根来さくらの里

岩出市押川37-1
☎0736-69-0210
9:00～17:00
[定休日:第1火曜日、盆、年末年始]

粉河ふれあい市場

紀の川市粉河421-6
☎0736-73-8587
9:00～16:00
[定休日:盆、年末年始]

貴志川ふれあい市場

紀の川市貴志川町前田135-1
☎0736-64-1213
8:30～17:00
[定休日:年末年始]

岩出ふれあい市場OINACITY

岩出市荊本20
☎0736-62-8313
9:00～16:00
[定休日:月曜日、盆、年末年始]

紀北地域



⑧ やっちょん広場

橋本市岸上522-1
☎0736-33-2500
9:00～17:00
[定休日:第1水曜日、
年末年始]



ありだ地域



⑨ ありだっこ

有田郡有田川町土生33-1
☎0737-53-1311
9:00～18:00
[定休日:第1・第3水曜日、年末年始]



紀州地域



⑩ フレッシュマート特産品直売所

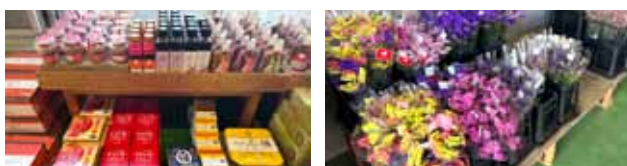
日高郡印南町印南261-1 ☎0738-42-1356
9:00～17:00 [定休日:年末年始]

紀州 花野果市(HIRO御坊店内)

御坊市湯川町財部50-1
8:00～24:00 [定休日:1月1日、2日]

ほんまもんふるさと産地直売所

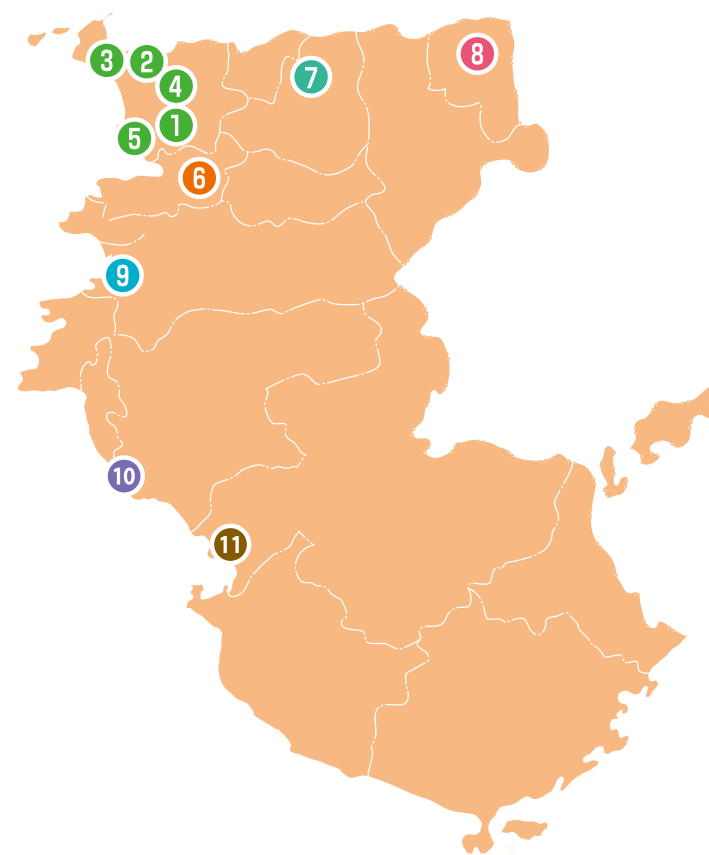
日高郡みなべ町東吉田274-1 ☎0739-72-1191
9:00～18:00 [定休日:年末年始]



紀南地域

きさいかん
⑪ 紀菜柑

田辺市秋津町752-1 ☎0739-81-0831
9:00～18:00 [定休日:年末年始]

和歌山
直売所
紹介

わかやま地域

あいさい
愛菜 てまりっこ

①【おかざき店】

和歌山市寺内575-1
☎073-476-4001
9:00～17:00
[定休日:日曜日、年末年始]

②【いさお店】

和歌山市園部1449
☎073-462-4841
9:00～17:00
[定休日:日曜日、年末年始]

③【かせい店】

和歌山市榎原223-26
☎073-452-3883
9:00～17:00
[定休日:日曜日、年末年始]

④【しかごなかのしま店】

和歌山市有本18-1
☎073-471-5211
9:00～17:00
[定休日:日曜日、年末年始]

⑤【さいか店】

和歌山市西浜1丁目1-1
☎073-444-1444
9:00～17:00
[定休日:日曜日、年末年始]



ながみね地域



⑥ とれたて広場

海南市重根西2丁目3番地5 ☎073-487-0900
9:00～17:00 (4月～9月は18時まで)
[定休日:水曜日、年末年始]



和歌山の農産物MAP

だいこん

和歌山市内の砂地でつくられただいこんは、とてもきめ細かく、白くて甘いのが特徴。おでんやサラダに最適です。中でも、名草地区のだいこんは「わかやま布引だいこん」として地理的表示（GI）保護制度に登録されています。

新しょうが

真っ白な根茎とほんのり紅い茎の部分が上品ですがすがしい印象の新しょうが。炊き込みご飯にしたり、甘酢漬けにして爽やかな夏の味を楽しんでください。

もも

紀の川流域で盛んに栽培されており、「あら川の桃」が有名。香り豊かで上品な甘みが特徴です。春の桃の花も見事で、お花見もおすすめです。

ミニトマト

和歌山のミニトマトは、糖度の高いものや房取りミニトマト、ロケットと名付けられた楕円形のものなど個性的な品種が揃っています。房取りミニトマトは驚くほどの甘さ。

みかん

みかんの主産地である和歌山県では各地でさまざまな品種が生産されています。4月下旬にはハウス栽培のものが出荷され始め、極早生、早生、普通みかんと続きます。普通みかんは貯蔵して最終出荷は3月初旬まで。和歌山では一年中、おいしいみかんを出荷しています。

スターチス

和歌山県は、スターチスの生産量が全国1位。温暖な気候を利用して秋から初夏まで出荷されています。花言葉は「変わらぬ心」。ドライフラワーにもなり、長く楽しめる花として親しまれています。

イチジク

イチジクは「不老不死の果物」と呼ばれ、ペクチンやカリウム、鉄分など栄養豊富。日本で売られているのは「樹井ドーフィン」という品種がほとんど。果実が大きく果皮は赤褐色、甘くてさっぱりした風味が特徴。

かき

やわらかく優しい甘みのたねなし柿や、サクサクした歯ざわりの富有柿など多種のかきを生産しています。

キウイフルーツ

主に紀の川市で栽培。11月に収穫し、熟成させてから出荷されます。主に栽培されている『ヘイワード』という品種は甘みと酸味のバランスがよく、プチプチとした種の食感もさわやか。

うすいえんどう

「紀州うすい」の名前で地域団体商標登録されています。大粒でホクホクとした食感と強い甘みが特徴。豆ごはんや焼きうすいなどでご賞味ください。

さんしょう

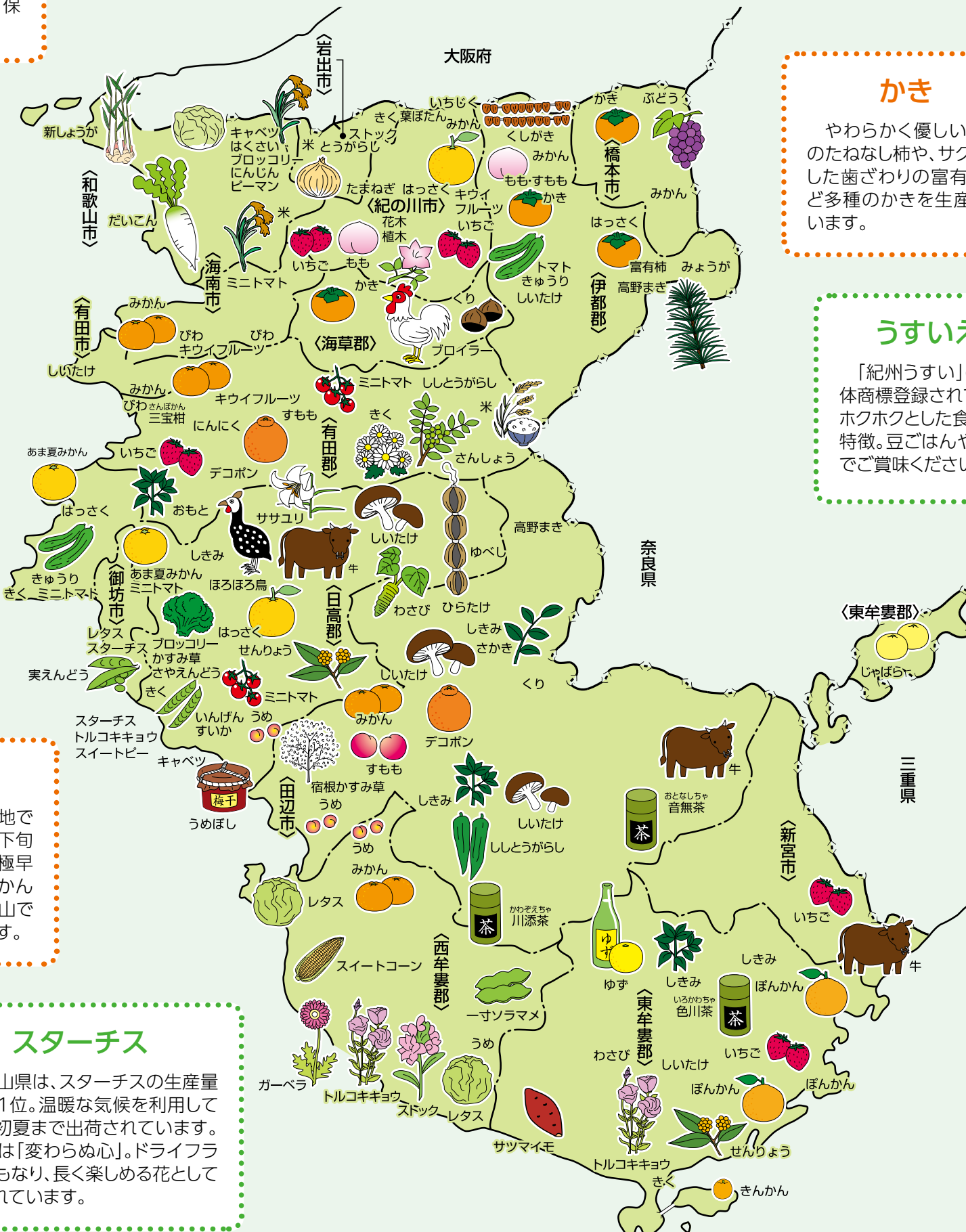
ピリリとした辛さが特徴のさんしょう。5月には生山椒が出荷され、その後は乾燥山椒が出荷されます。佃煮やちりめん山椒など、さまざまな料理方法でお楽しみいただけます。

うめ

全国シェア65%を誇る「紀州南高梅」。梅干しをはじめ、梅酒やジュースなどに加工されています。クエン酸やβ-カロチンなど、豊富な栄養分が含まれているのも魅力。

いちご

いちごの品種は数多く、和歌山県独自の品種は「まりひめ」。かわいらしい響きと優しさを感じさせるよう名付けられた「まりひめ」は、果実の色は鮮やかな紅色。実が大きく果汁が多い、食味もバツグンのイチゴです。





大果大阪青果株式会社

代表取締役社長 堀ノ内 重治

この度、新たな「和歌山県農業協同組合」として発足されましたこと、誠におめでとうございます。貴組合の誕生は、和歌山県農業の発展にとって大変意義ある合併であり、心よりお祝い申し上げます。

和歌山県は温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、柑橘類・柿・桃・梅等の果実、キャベツ・白菜・大根等の野菜に於いて、全国に名だたるブランド産品を数多く擁し、「果樹王国・園芸産地」としての確固たる地位が確立されております。これらの産品は、生産者の皆様のたゆまぬ努力と情熱、そして長年にわたる技術の研鑽によって育まれてきました。

新組合の誕生は、新たなスタートラインです。より一層の連携を深め、知恵と力を結集し、和歌山県農業の発展、そして地域社会の活性化に貢献されますことを、心より期待申し上げます。

東京青果株式会社

代表取締役社長 川田 光太

新JA「和歌山県農業協同組合」のご発足、心よりお祝い申し上げます。貴組合では長きに渡り、高品質な青果物の生産出荷をされてこられました。また、消費地環境が激動するなかであっても貴組合の組織力が発揮されたことで、御県はトップクラスの果樹産地として全国のお客様や関係機関から大きな信頼と期待をされております。

これからも様々な環境の変化が見込まれておりますが、この度の県下統一を機に更なる組織力の向上と、消費者ニーズに沿った高品質な青果物の生産と安定的な出荷を目指し、トップ産地の地位を保持し続けられるような生産体制の維持をお願い申し上げますとともに、皆様の益々のご発展を祈念いたしまして、ご挨拶と致します。



株式会社大田花き

代表執行役社長 磯村 信夫

大同団結、和歌山県農業協同組合の誕生に心よりお祝い申し上げます。多様な需要に応えるバラエティ豊かな花きを、より多く、安定的にご出荷いただけることを大いに期待しています。

少子高齢化や地球温暖化といった厳しい環境の中で、県内が一丸となって経営基盤を強化し、優れた人材の確保、またDX・GXを活用した生産性向上に取り組むことが、持続可能な農業の実現に不可欠です。さらに、それを支える資本(財)を基盤に、きめ細かなサービスを提供する努力が、生産者の皆様の所得向上に繋がることを確信しています。

我々花き市場も、各地域での合併や市場間の連携を強化し、和歌山県の花きを日本全国に供給する体制を整えて参ります。

今後も、和歌山の花きで日本中の人々を幸せにするべく、共に歩んで参りましょう。



わかやま地域

生産販売連絡協議会 会長

貴志 年伸さん

和歌山県下には全国に誇る農産物があり、それが結集する。JAは規模が大きくなり強みを持つ。影響力のある広報と販売体制。そして、高い技術力で統一された営農指導。今まで以上に地域と組合員に寄り添い、地域農業の発展に寄与する姿を見せてほしい。



紀の里地域

女性会「かがやき部会」部長

山田 和美さん

合併後も引き続き女性組織がますます元気であるように。地域での活動を中心に役職員の皆様とともに取り組むことでJAの新たなファンづくりにつなげてほしい。



ありだ地域

AQ選果場柑橘部会 副部会長

嘉成 光彦さん

近年、肥料・農薬と生産資材が高騰しています。新JAで一括購入を行い、少しでも安い単価で購入できるようお願いしたいです。

販売面では新JAとなり、全国トップクラスの販売高となると思います。スケールメリットを生かした有利販売に取り組んでほしいです。



紀南地域

梅部会 部会長

岩見 健生さん

“農協が必要か”と問われれば「必要」。普通にあるものと思ってきた。梅などの部会組織も、一人でできないことを力を合わせ解決する。それがJA。合併で体制が手薄になるのではなく、特に指導や営農事業はより細かな対応に努めてほしい。



ながみね地域

青年部 部員

中西 康介さん

新JAには農産物販売の面だけではなく、地域に根差した組織である魅力や総合事業を営める組織である強みを存分に活かしながら、この先20年以上、私たち若手農家が営農を続けていくために、農業経営に関する地域に寄り添ったサポートを更に充実してほしい。



紀北地域

女性会フレッシュムズ リーダー

岡前 恵さん

フレッシュムズ活動は、JAと地域をつなぐ潤滑油のような役目です。社会や環境、農業のことを学びながら、子育てなどの悩みがあれば相談でき、地域との関わりや活動が楽しめるような、心身ともに息抜きできる場にしたいです。



紀州地域

中央花き花木部会 部会長

竹輪 和弘さん(写真左)

みなべいなみ花き部会 部会長

山崎 亮太さん(写真右)

スケールメリットを活かし所得向上に向けた体制づくりや、県内随一の花き生産地として持続可能な産地形成ができるよう取り組んでほしいです。また、県内の生産者との交流が増えることにより、農業が活性化することを期待しています。



みくまの地域

准組合員

山中 綾さん

新JA発足、おめでとうございます。

合併して期待することは、地域の農業を衰退させないこと。

そのためにも、若者世代が農業を受け継ぎ、新たな価値が提供できるよう取り組んでほしいと思います。

【別表】投票所・開票所、選挙する総代数

地区	選挙区	定数	投票所	開票所
わかやま	西ブロック	23	西部営農センター	西部営農センター
	北ブロック	29	北部営農センター	北部営農センター
	中央ブロック	31	中央営農センター	中央営農センター
	南ブロック	19	南部営農センター	南部営農センター
	東ブロック	28	東部営農センター	東部営農センター
ながみね	紀美野ブロック	26	紀美野営農生活センター	紀美野営農生活センター
	海南ブロック	33	海南営農生活センター	海南営農生活センター
	下津ブロック	27	しもつ営農生活センター	しもつ営農生活センター
紀の里	那賀ブロック	22	紀の里地域本部	紀の里地域本部
	粉河ブロック	47		
	打田ブロック	36		
	桃山ブロック	24		
	貴志川ブロック	24		
	岩出ブロック	25		
紀北	いとブロック	34	紀北地域本部	紀北地域本部
	橋本ブロック	45	橋本支店	
	かつらぎブロック	42	かつらぎ支店	
ありだ	箕島ブロック	19	箕島支店	箕島支店
	宮原ブロック	12	宮原支店	宮原支店
	吉備ブロック	31	吉備支店	吉備支店
	湯浅ブロック	11	湯浅支店	湯浅支店
	広川ブロック	13	広川支店	広川支店
	金屋ブロック	31	金屋支店	金屋支店
	清水ブロック	12	清水支店	清水支店
紀州	御坊ブロック	32	湯川支店	湯川支店
	日高川・龍神ブロック	39	日高川支店	日高川支店
	美浜・日高・由良ブロック	28	日高支店	日高支店
	みなべブロック	44	梅の郷支店	梅の郷支店
	印南ブロック	29	印南支店	印南支店
紀南	田辺ブロック	80	紀南地域本部（朝日ヶ丘）	紀南地域本部（朝日ヶ丘）
	富田川ブロック	50	朝来支店	朝来支店
	大辺路ブロック	21	すさみ支店	すさみ支店
みくまの	みくまのブロック	40	新宮支店	みさき支店
			みさき支店	
			那智支店	
			太地支店	
			西向支店	

正組合員 各位

総代選挙のご通知

平素は、組合運営に格別のご理解とご協力を賜わり、厚くお礼申し上げます。
さて、県1JA合併に伴う新総代の選出について、定款附属書総代選挙規程第4条の規定に基づき、下記のとおりご通知申し上げます。

記

- | | |
|--------------------|--------------|
| 1. 選挙投票日 | 令和7年5月2日（金） |
| 2. 候補者締切日 | 令和7年4月28日（月） |
| 3. 投票開始時刻 | 午前9時 |
| 4. 投票終了時刻 | 午後5時 |
| 5. 投票用紙に記載する総代数 | 1人 |
| 6. 投票所・開票所、選挙する総代数 | 別表のとおり |

以上

※総代の候補者がその選挙区において選挙する総代の数を超えないとき又は超えなくなったときは、規程第19条の定めにより無投票当選となりますので、選挙は行いません。

■ 所得向上に向けた生産対策 (年間1.5億円以内)

【高品質生産、生産拡大に取り組む方への支援】

支援メニュー	助成内容	対象者	助成額・率
6 園芸作物生産拡大対策 県補助事業との併用可	1)地域本部が振興する高糖度商材(味一みかん等)、個性化商材(紀の川柿等)、地域特産品(野菜・花き含む)の高品質生産に必要な資材費の一部を助成します。	組合員	助成額上限 30万円 (左記 1)と 2)の合計) 30%以内
	2)地域本部が振興する品種の改植用苗木、種苗費(生産拡大分)の一部を助成します。		

【省力化・スマート農機の導入に対する支援】

支援メニュー	助成内容	対象者	助成額・率
7 省力化・スマート農業推進対策 県補助事業との併用可	省力化・スマート農業に取り組むために必要な①農業用ドローン②ラジコン草刈機③移植機④肥料散布機⑤野菜収穫機⑥選別機⑦ハウス内ICT機器⑧アシストスーツ等の購入費用の一部を助成します。	組合員	助成額上限 30万円 30%以内

【重要病害虫の被害防止への支援】

支援メニュー	助成内容	対象者	助成額・率
8 重要病害虫対策 県補助事業との併用可	クビアカツヤカミキリ等重要病害虫対策に必要な①被害拡散防止・侵入防止用被覆資材②被害樹又は被害拡大の恐れのある樹の伐採・抜根の作業委託費③焼却処理施設までの運搬・処理等の費用の一部を助成します。	組合員	1/2以内

【鳥獣の被害防止への支援】

支援メニュー	助成内容	対象者	助成額・率
9 鳥獣被害防止対策	1)野生鳥獣による農作物被害防止に必要な①ワイヤーメッシュ②電気柵③防護ネット④わな(箱・くくり)の資材費の一部を助成します。	組合員	助成額上限 20万円 (左記 1)と 2)の合計) 1)は1/2以内、 2)は30%以内
	2)わな免許所持者の狩猟者登録に必要な①狩猟税②狩猟者登録手数料③ハンター保険④猟友会会費の一部を助成します。		

■ 各地域本部による独自支援 (年間2.5億円以内)

上記メニュー以外に「地域本部独自対策」を各地域本部ごとに実施し、地域独自の課題解決に必要な取り組みを支援します。

支援内容や受付時期は地域ごとに異なりますので、詳細は住所地の地域本部へお問い合わせください。

令和7年度

農業振興支援制度について

新JAの農業振興方策の1つとして担い手の確保や農業所得の向上を図るため、組合員をはじめ、新規就農拡大に取り組む団体や親元就農・新規参入者をサポートする助成制度をスタートさせます。

(注)支援メニューごとの要件があります。また申請額が年間助成上限額を上回った場合等には助成率が下がる場合があります。

■ 担い手・労働力確保対策 (年間1億円以内)

【新たに農業を始めたい方への支援】

支援メニュー	助成内容	対象者	助成額・率
1 新規就農拡大支援 県補助事業との併用可	J Aの生産部会等が実施する短期農業体験や農業研修、研修修了者の経営開始にかかる費用等の一部を助成します。	J Aの生産部会、J Aが参画する産地受入協議会、J Aが認めた生産者団体	1 生産部会・産地受入協議会・生産者団体あたり年間助成額上限 150万円
2 スタートアップ支援 県補助事業との併用可	農業経営開始にかかる費用の一部を助成します。	親元就農し農業経営を開始した者のうち、R7/1/1～12/31までに経営を開始し、経営開始時の年齢が49才以下の者	30万円
3 定着化支援	令和7年度に収入保険制度へ新規加入した方へ保険料の一部を助成します。	親元就農し農業経営を開始した者・新規参入者のうち、令和7年度に収入保険制度へ新規加入した49才以下の者	助成額上限 10万円 1/2以内

【規模拡大・新規品目の導入支援】

支援メニュー	助成内容	対象者	助成額・率
4 ステップアップ支援	規模拡大・新品目導入に必要な①農業用機械②農業生産施設③集出荷機械・施設④農業用倉庫⑤農産物の加工・冷蔵・貯蔵施設⑥果樹の新植用苗木⑦農地の造成等の費用の一部を助成します。	親元就農し農業経営を開始した者・新規参入者のうち、経営開始3年目～10年以内で助成申請時の年齢が49才以下の者	助成額上限 150万円 1/2以内

【労働力の確保に関する支援】

支援メニュー	助成内容	対象者	助成額・率
5 労働力確保対策	1)雇用労働力確保のために必要な①宿泊施設②トイレ③休憩所④駐車場等の整備・改修⑤一体的に行う付帯施設の費用の一部を助成します。	雇用労働力を必要とする組合員	助成額上限 45万円 (左記 1)と 2)の合計) 30%以内
	2)長期雇用労働力確保のための宿舍(アパート等)の月額賃貸料の一部を助成します。		

クロスワードパズルのこたえ

・旧JAわかやま広報誌3月号
・旧JA紀の里広報誌3月号

こたえ「ウグイス」

1	ホ	ワ	8	イ	ト	16	ハ	カ
2	ト	イ	レ	13	カ	マ	ス	
	ケ		9	モ	10		17	グ
		7	モ	ノ	ガ	14	タ	リ
3	ト	ス		11	キ	イ		20
4	サ	ク	ラ		15	ヨ	モ	ギ
5	カ	ワ		12	コ	ウ	モ	リ

・旧JA紀北かわかみ最終号
・旧JA紀州3月号
・旧JA紀南4月号

こたえ「イースター」

1	ホ	5	タ	ル	イ	12	カ		17	エ
		6	タ	イ		13	ラ	リ		1
2	ク	ミ		11	ス	タ	ン	プ		
	ウ		9	リ		チ		リ		
3	キ	7	ジ	ユ	ツ		16	マ	ル	
4	イ	コ	ウ		14	ホ	ウ			
	レ		10	ハ	ル	ヤ	ス	ミ		

応募方法

ハガキで応募

〒640-8331 和歌山市美園町5丁目1-1
JAわかやま広報地域対策課

「俳句 川柳 短歌」係

※裏面に、俳句・川柳・短歌の区別と作品・住所・氏名・電話番号をご記入ください。

メールフォームで応募

右の二次元バーコードを読み込み、アクセス先のメールフォームにご記入、送信してください。



7月号(6月発行)応募〆切

5月9日(金)必着

お問い合わせ JAわかやま広報地域対策課
TEL:073-488-5520

＼ あなたが撮った自慢の写真、見せてください！ ＼

わかやま映え

写真大募集



地域の皆さまがデジタルカメラやスマートフォンで撮影した「わかやま映え」の写真毎月応募します。

入賞作品は広報誌や公式Instagramなどで紹介させていただきます。

最優秀賞と優秀賞は豪華賞品! ぜひ、ご応募ください。

テーマ 和歌山県内で撮った季節の写真、伝統行事、農のある風景など。
応募資格 和歌山県内に住所を有する方。
応募方法 画像データを下記アドレスに添付して必要事項を記入し、お送りください。

応募用メールアドレス wakayamabae@gmail.com

メールに記入する必要事項

①氏名(ペンネームを希望する場合は併記) ②年齢 ③住所
④電話番号 ⑤作品のタイトル ⑥撮影時期(年月) ⑦撮影場所

※応募の際に要項を必ずご確認ください。
右の二次元バーコードから、公式HPでもご覧いただけます。



今回は4月～5月の写真を大募集! 締め切りは5月30日(金)です!

お問い合わせ JAわかやま広報地域対策課 TEL 073-488-5520

選者の紹介



桑島啓司先生

公益社団法人俳人協会評議員
和歌山俳句作家協会副会長
毎日紀州俳壇選者
和歌山新報選者



木本朱夏先生

一般社団法人全日本川柳協会常任幹事
公益財団法人日本文藝家協会会員
NHK学園川柳通信講座講師
産経新聞和歌山版川柳欄選者



井谷まさみち先生

水薺選者
日本歌人クラブ名誉会員
現代歌人協会特別会員
和歌山県歌人クラブ顧問

「俳句 川柳 短歌」では、皆さまの作品を選句選歌し、広報誌に掲載します。俳句・川柳・短歌の区別を記入のうえ、ハガキまたはメールフォームでご応募ください。

俳句 川柳 短歌

合併に伴うご案内

信用事業にかかる変更事項

- お取引店舗について、金融機関名、金融機関コード、店舗コードが変更となります。別途お送りしている「合併のご案内」をご確認ください。
- 合併前に締結した契約、届出等は、すべて新JAに引き継ぎます。
- お手持ちの通帳は、合併日(4月1日)以降JA窓口をご利用の際に、新名称・金融機関コード等のシールを貼付させていただきます。ATMをご利用される場合は、現在の通帳を継続してご利用いただけます。なお、定期貯金・定期積金証書等は引き続きご利用いただけます。
- 口座番号に変更はございません。
- キャッシュカード(JAカード・ローンカード含む)は引き続きご利用いただけます。
※合併に関して、当JAの職員がお客様のお宅を訪問し、キャッシュカードやローンカードの切替を理由にお客様のカードをお預かりすることや、暗証番号をお尋ねすることはございません。当JA職員やJAバンク関係者、関係官庁職員等を騙る詐欺にはご注意ください。
- ATMで振込をされる場合、ICキャッシュカード・振込カードに登録された旧JAの振込先情報については、4月11日(金)より使用できなくなります。大変お手数ですが、ATMで再度ご登録をお願い申し上げます。
- 定例振込等(給与振込・年金振込・公共料金等の口座振替)は従来どおりです。必要な手続きはJAで行いますが、お客様からの手続きが必要な場合には、改めてご案内させていただきます。
- 振込等の為替取引は新名称をご使用ください。ただし県内JA以外のATMでお振込みをされる場合は、旧名称でしかお振込みができない場合がございます。(なお、合併日以降に「旧金融機関名・旧金融機関コード」「旧店舗名・旧店舗コード」でお客様へお振込みを受け付けた場合、令和7年7月4日(金)までは、お客様の口座へ読み替えてご入金いたします。)合併日以降、お取引先からお客様の貯金口座へ振込予定がある場合は、事前にお取引先に名称変更の旨をご連絡ください。
- 貯金商品は全て統一いたします。なお、特に多くの皆様にお預けいただいているすこやか定期貯金は、合併後は上限金額を変更させていただきます。現在の契約内容によってはお手続きが必要な場合がございますので、その場合は別途ご案内させていただきます。
- 一部の貯金の適用利率を変更させていただきます。なお、満期日が合併日以降の定期貯金・定期積金は、現在約定している利率を満期日まで引き続き適用いたします。
- 個人JAネットバンクやJAバンクアプリプラス(個人JAネットバンクのスマートフォンアプリ)をご利用のお客様で、金融機関コードが変更となる7JA(JAながみね、JA紀の里、JA紀北かわかみ、JAありだ、JA紀州、JA紀南、JAみくまの)のお客様におかれましては、合併後にワンタイムパスワードが利用解除されますので、大変お手数ですが、合併日以降に改めてワンタイムパスワードの利用開始手続きをお願い申し上げます。
(JAバンクアプリ プラスをご利用のお客様は、改めてJAバンクアプリプラスの利用登録手続きをお願い申し上げます。)

合併に伴うご案内

販売出荷資材に関するお知らせ

ご利用いただいている販売出荷資材について、JA名の表記等を変更しますので、以下のとおりご対応をお願いします。

購入済みの販売資材(出荷用段ボール箱、フィルム・袋・パックなど)については、
令和8年4月1日より新資材に切り替えます
(合併日より1年間を移行期間とします)

【備考】

- 令和7年4月1日以降、順次、新資材に切り替えを行います。
- 切り替えに伴う残余在庫の返品はできませんので、令和7年度使用分の資材は余らないように調整してご注文ください。
- 令和7年度中に出荷が始まり、令和8年度にかけて出荷が続く品目(いちご、白菜、キャベツ、うすいえんどう、ミニトマトなど)は出荷が終了するまで令和8年4月1日以降も旧資材を使用いただけます。

※新資材への切り替えの対象となる資材については、部会等を通じてご案内します。

なお、部会等で個別に利用ルールなどを設定することもありますので、部会等からの案内に従っていただきますようお願い申し上げます。

新しい「ココワカ」はじまる。

「ココ」はココロ（心）。「カラ」はカラダ（身体）。

果物や野菜、花など、新鮮な旬の農産物が、
生活者のココロとカラダに潤いを届け、健康で豊かな暮らしを創っていく。

新鮮と安全・安心を、ココロとカラダへ届けるJAわかやま。

その想いは、気持ちの中へ、身体の中へ浸みこんでいきます。

2011年から全国へ発信してきた和歌山県産農産物の総合的な消費宣伝の

統一キャッチフレーズであった「ココ・カラ。和歌山」は、

新たに新JAの農産物ブランドとして再出発します。

ココ（ロ）へ、カラ（ダ）へ、（ここ）和歌山から。

ココカラ和歌山



友だち募集中
「ココカラ和歌山」LINE

JAわかやま広報誌

「紀のわ」創刊にあたって

令和7年4月1日、県内8JAがひとつとなり、
新生「JAわかやま（和歌山県農業協同組合）」が
スタートしました。

県内一円をエリアとし、かつてから「紀州」や
「紀の国」と呼ばれ、紀伊水道や熊野灘などに面し
た紀伊半島の南西地域をグルッと半周した広域JA
の誕生です。

ミカンや梅、桃、柿といった果樹から新しう
が、ダイコンなどの野菜、切り花に至るまで全国
トップクラスの農産品が並ぶ——。そのバックグラ
ウンドには世界遺産である「紀伊山地の霊場と参詣
道」や世界農業遺産の「みなべ・田辺の梅システ
ム」。脈々と流れ続けてきた自然と歴史、文化があ
り、そこで生まれた農産物が上質な味と癒しを全国
に届けています。

地域の農業や組合員、そこで暮らす人々を支える
のが、まさしく農業協同組合「JAわかやま」の使
命です。

このたび創刊したJAわかやま広報誌「紀のわ」
は、JAと組合員をつなぐコミュニケーション誌で
す。情報をお届けするのはもちろん、多くの組合員
に登場していただくとともに、さまざまな声をお届
けいただくことによって、より良いJA運営と活動
に活かしてまいります。

組合員や地域住民が「和」をもって集ってこそ、
新JAの力が出せるのであり、JAわかやまは、広
報誌「紀のわ」の発行によって皆さまとの大きな
「輪」づくりを目指してまいります。

